

銀河レポート401

No. 53
10月

発行日：令和元年10月1日
編集&発行：四日市市立博物館
プラネタリウム
電話：059-355-2700
HP：<https://www.city.yokkaichi.mie.jp/museum.html>

10月の星空

秋の四辺形と秋の星

秋の星空はあまり明るい星がないのですが、南の空高くに見える「秋の四辺形」をもとに色々な星座や星を探ることができます。四辺形をつくる四つの星のうちの一つの星はペガサス座の胴体部分を形づくり、残りの一つの星(アルフェラッツ)は、アンドロメダ座のお姫様の頭部にあたります。四辺形の東側の二つの星を結んで下に伸ばすと、くじら座の尻尾の星であるデネブカイトスが見つかります。西側の二つの星を結んで下に伸ばすと、みずがめ座を通して、みなみのうお座と出会います。この魚は、みずがめ座の瓶から流れる水(神酒)を飲んでいました。魚の口で輝く星がフォーマルハウトです。フォーマルハウトは秋の星空でたった一つの1等星であるため「秋の一つ星」と呼ばれています。

ペガサス座

ペガサス座の星座絵には翼の生えた馬の姿の前半分だけしか描かれていません。神様がペガサスを星座にしようと思ったとき後ろ半分が雲にかくれていたからという説、怪獣キマイラと戦ったとき、下半身を食われてしまったからという説、光と速さ比べをしたときにあまりの速さのために後ろ半分がついてこられなかったからという説など様々です。秋の星空を見上げながら色々と想像をめぐらすのも楽しそうです。



10月15日21時の星図

星図：ステラナビゲータ10/(株)アストロアーツ

となりの銀河

星座をつくる星々は、うすい凸レンズの形をした棒渦巻型の「銀河系」と呼ばれる約2000億個の恒星の集まりです。私たちはその銀河系の中において内側からこの銀河系の星々を見えています。夏の夜空には銀河系の中心方向の星々が「天の川」としてよく見えますが、秋は見える銀河系の星の数が少なく暗い星空となります。しかし、この暗さを利用して、私たちのいる銀河系(天の川銀河)の外にある他の銀河を観察することができます。ただ、あまりにも遠くにあるので望遠鏡が必要になりますが、となりの銀河である「アンドロメダ銀河」だけ西は何とか肉眼で見られます。アンドロメダ座の恒星ミラクと西となりの星とをつないだ長さと同じ長さ分、西方向に伸ばした位置で見つかります。となりの銀河といっても光の速さで230万年かかる距離にあるため、ぼんやりとしか見えません。アンドロメダ銀河は、天の川銀河とよく似た渦巻き状の銀河で、その規模は、天の川銀河の2倍以上ありそうだとされています。そして、この二つの銀河は、現在ものすごい速度で近づいていて、約40億年後には、合体すると考えられています。NASAは、宇宙には天の川銀河のような銀河が約2兆個あると発表しています。

十三夜の月(栗名月)

旧暦8月15日の中秋の名月は中国から伝わったものですが、翌月の旧暦9月13日の月見「十三夜」は日本独自の風習です。中秋の頃より秋晴れの日が多いので月見に適しているようです。なぜ十三夜の月なのかについては諸説ありますが、わずかに欠けた月を愛でるとということが風流なのでしょう。月の形が栗の実に似ている、栗の収穫の時期でもあるため「栗名月」とも言われ栗をお供えすることが多いようです。今年の十三夜は10月11日です。



天文ボランティア主催行事

ガリレオ教室 〈月のひみつ〉

私たちにとって身近な天体でありながら、月について案外知らないことが多くあります。月のひみつについて天文ボランティアが映像等を使って楽しくわかりやすく説明します。

日時：10月13日(日)
①11時～11時20分
②14時～14時20分



ボランティア工房 〈にゃん着陸〉

ネコは高い場所から飛び降りても器用に着地することができます。そんなすご技を紙細工で再現します。

日時：10月27日(日) 14時～15時

※場所はともに5階コズミックラウンジ(当日受付 参加無料)

番組と観望会をつないで

博物館屋上での観望会

土星と「銀河鉄道の夜」の星を見よう
当館プラネタリウムでは、土曜日の18時30分から夜間特別番組を放映しています。10月26日(土)には、番組「銀河鉄道の夜」に合わせて、17時から博物館屋上での観望会を実施します。物語に登場する「はくちょう座のアルビレオ」や黄昏の空の木星や土星等の天体を観ていただく予定です。博物館屋上はあまり広くないので順にご案内します。時間に余裕をもってお越しください。詳しくは左下の観望会のご案内をご覧ください。アルビレオ






★★観望会★★

《天文ボランティア主催観望会》 場所：博物館前市民公園
10月 5日(土) 18時～19時30分 「月と木星と土星を一度に見よう」
※きらら号は出動しません。

《博物館主催観望会》
①10月11日(金) 19時～20時30分 「栗名月と土星を見よう(旧暦の9/13)」
場所：博物館前市民公園 ※きらら号が出動します。
②10月26日(土) 17時～18時30分 「土星と『銀河鉄道の夜』の星を見よう」
場所：博物館屋上(5階コズミックラウンジ前集合 最終受付18:20)
※博物館屋上での観望会にはきらら号は出動しません。
※天候不良時は中止です。
※当日自由参加・無料です。

10月の月

6日  上弦
14日  満月
21日  下弦
28日  新月

編集後記

本格的な秋を迎えました。月が見える高さも秋の深まりとともに高くなってきます。日本の秋のお月見は「中秋の名月」だけにとどまらず、10月以降も続きます。平安時代に藤原道長は「望月の歌」を11月の満月を見て詠んだそうです。服装などの準備物を、暑さ対策から寒さ対策に切り替えながら、夜空の天体観察を楽しむ季節となりました。